

山梨県埋蔵文化財センター

埋文やまなし

2009.3.14

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/maizou-bnk/index.html>

YAMANASHI Pref
ARCHAEOLOGICAL Cultural
Propaganda Center



第32号

平成20年度に発掘調査された 山梨リニア実験線の下に眠る遺跡たち

今年度は、笛吹市内の4遺跡の発掘調査を行いました。縄文時代の土坑や古墳時代の住居跡などが発見された中丸遺跡、縄文時代と弥生時代の住居跡、また古墳の周溝の一部が確認された竜安寺川西遺跡、縄文時代の住居跡と中世の地下式土坑が調査された稲山遺跡。以上の3遺跡は、今回新たに発見された遺跡です。そして古くから縄文時代の遺跡として知られている三光遺跡です。

これらの遺跡の各担当者が、ピックアップした目玉情報を今回はお届けします。



中丸 (なかまる) 遺跡

中丸遺跡を発掘調査した結果、今から約 6,000 年前の土坑、土器片、黒曜石製の矢じりなどが発見され、この地に縄文時代の集落が形成されていたことが分かりました。さらに今から 1,700 年前の竪穴住居跡や土器の破片も見つかっており、古墳時代においてもこの地に集落が存在したことが確認されました。

ところで、今回出土した遺物の中には関山式(せきやましき)と呼ばれる縄文土器の破片が含まれていました。関山式土器は、縄文時代前期(今から約 6,000 年前)の繊維土器(せんいどき)です。繊維土器とは胎土に故意に植物の繊維を混入させた土器のことですが、その目的は、粘土の粘性を抑えて乾燥の際に亀裂が入るのを防ぐためではないかと考えられます。関山式土器は埼玉県を中心に関東地方全域にわたり一般的に見ることができますが、中丸遺跡が存在する甲府盆地内でこの土器が発見されるのは珍しいことです。これは、この地と関東地方に人や物などのつながりがあったことを物語っています。



関山式土器(せきやましきどき)



A-2区全景

竜安寺川西 (りゅうあんじがわにし) 遺跡

～住居跡に埋められた土器～

竜安寺川西遺跡の発掘調査では、縄文時代前期末・縄文時代中期前半・弥生時代後期前半の竪穴住居跡が発見されています。このうち、縄文時代中期前半(約 5,000 年前)の竪穴住居跡からは、埋甕炉(まいようろ)を発見しました。埋甕炉は、住居の床面を掘って、下半部を打ち欠いた土器を埋め、その内側で火を焚く施設で、縄文時代中期によく見られる炉(ろ)の形です。埋甕炉は竪穴住居跡の中央部からやや北寄りにあり、土器の口縁部がほぼ完全な形で残っていました。

埋甕炉の土器を取り出すために周辺を掘ってみると、もう一つ土器が埋められていることがわかりました。この土器も下半部を打ち欠いて埋められていましたが、完全に床面の中に埋まっていて、口縁部も欠け、上半部の一部が残っただけでした。おそらく、以前使用していた埋甕炉が何らかの理由で使えなくなってしまうために、古い埋甕炉を埋めて、そのとなりに新しい埋甕炉を作り直したのでしょう。

縄文時代の人々にとって、炉は生活にかかせない大事な施設だったはずですが、この竪穴住居跡に暮らしていた人々も、快適な生活ができるように、また長期間居住するために、炉を作り直していた様子うかがえます。



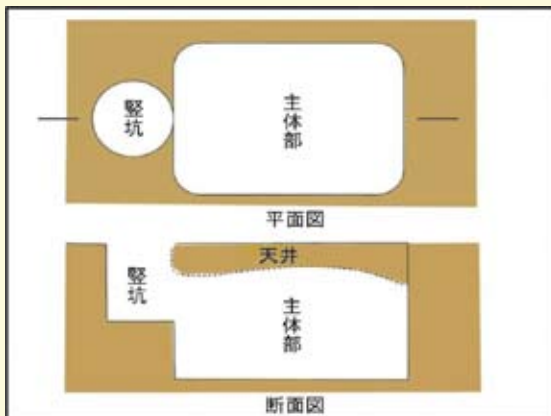
稲山 (いなやま) 遺跡

～なぞだらけの地下式土坑～

今回の調査で発見された遺構の中に、変わった形の土坑が検出されました。

この土坑は、地下式土坑とよばれ、地表からの竪坑を経て地下室(主体部)に至る構造の遺構で、「埋葬に係わる施設」あるいは「物品の貯蔵施設」などと考えられています。構築時期は、中世～近世などにみられ、中世においては特に関東地方や山梨県において、盛んに造られています。本遺跡の地下式土坑も出土遺物等から中世に構築されたものと思われます。写真の地下式土坑からは、土師質土器や骨片が出土していますが、用途の決め手となるには至っていません。このため、今回、地下室内部の土を採取し、土壌分析を試みることにしました。この分析結果次第では、何か重要なヒントが得られるかもしれません。

今後、分析結果を踏まえ地下式土坑の用途について検討していきたいと考えています。



三光 (さんこう) 遺跡

～縄文中期文化開花直前の土器～

三光(さんこう)遺跡は、甲府盆地を南側から見下ろす笛吹市御坂町竹居地区の標高約420m地点にあります。今から35年前に畑の作付転換の際に調査が行われ、多量の縄文時代早期から晩期(約10,000～2,300年前)までの土器のほか、長さ約11cmの翡翠(ひすい)製大珠が発見され、当時の人々をたいへん驚かせました。

今回、リニア実験線建設に伴って当時の調査地北側部分を調査したところ、縄文時代中期～後期(5,000～3,000年前)を中心とした遺物や遺構が検出されました。その中でも、迫力だったのは、煮炊きや貯蔵に使用されたと推測される縄文時代中期初頭(約5,000年前)の深鉢形土器2個体分が横たわって出土したものがあげられます。この土器は五領ヶ台式(ごりょうがだいしき)土器といって、関東から中部地方を中心として出土するもので、口縁部(こうえんぶ)から胴部に縄文や曲線を基本とした文様や集合沈線文(しゅうごうちんせんもん)などが施されていることなどが特徴とされています。これらの装飾は、非常にシンプルな感じがしますが、この後に出現する縄文時代を代表とする華やかな勝坂式(かつさかしき)土器に受けつながっていくものです。



整理室だより 甲府城出土の金箔違鷹羽紋軒丸瓦

織豊期の城郭から大名の家紋瓦が発見される例は少ないです。しかし甲府城からは鬼瓦や飾瓦、軒丸瓦に自家紋を付けたものがあることが知られています。近年の再整理に伴い金箔が付いた浅野家の紋（違鷹羽）瓦も発見されてました。ここに紹介する軒丸瓦は、軒に面する瓦当がとてもきれいに整形されています。金箔は、安土城の瓦のように凹面に施されているのではなく、大阪城の瓦のように凸面に施されているのが特徴です。こうした資料から豊臣家における浅野氏への位置づけや甲府城の性格など往時の政治的な背景を考えていく上でとても興味深い資料です。そこに豊臣政権を支える要衝としての甲府城の姿が窺えます。



埋蔵文化財センターからのお知らせです！

むかしおぼ

昔覚ゆる甲府城展—城と城下町—

4か年にわたる調査の結果、明らかとなった研究成果について公開します。新発見の絵図パネルや天守に使われていた可能性のある鯨瓦や復元品などを展示予定です。

期 間
開 館 時 間

平成21年4月10日（金）～4月19日（日）
午前9時～午後5時（但し、入場は4時30分まで）
（10・11日午後8時まで開館）

会 場
問い合わせ先

舞鶴城公園 稲荷櫓 **（入場無料）**
山梨県埋蔵文化財センター
☎ 055-266-3016

記念講演会

『絵図から見た甲府城下町の姿—京大所蔵絵図を中心に—』
4月12日（日）午前10:30～12:00
会場：恩賜林記念館2階大講堂 **（入場無料）**
講師：元甲府城跡保存活用等調査検討委員会事務局
平山 優

編集後記

一雨ごとに寒さが和らぎ、桜の開花が待ち遠しい今日この頃。今回は、山梨リニア実験線の建設に伴って、今年度発掘調査が行われた4つの遺跡をご紹介します。また、4月に行われる昔覚ゆる甲府城展のお知らせを載せました。ぜひ、お立ち寄りください。

山梨県埋蔵文化財センター

埋 文 や ま な し 第32号

発行日 2009年3月14日
編 集 山梨県埋蔵文化財センター
発 行 〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923
Tel 055-266-3016 Fax 055-266-3882
印 刷 株式会社南堂印刷所